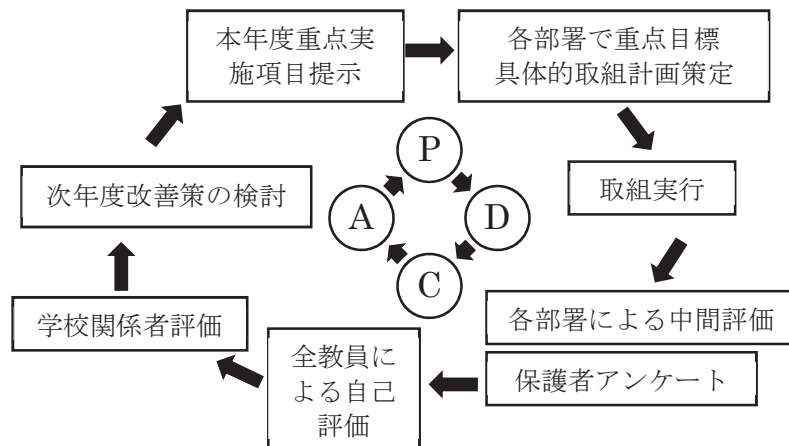


I 令和2年度学校評価

県立氷上高等学校

1 本校の学校評価



2 本年度重点実施項目

- (1) 基礎学力の定着と主体的・対話的、協働的学習の積極的な導入
生涯を生きていくために重要な基礎的・基本的学力や技能を定着させるとともに主体的・対話的、協働的学習を積極的に導入し、思考力・判断力・表現力・課題解決力等未来型の学力を養う。
- (2) 専門性の向上と社会的自立に向けたキャリア教育の充実
社会の変化や産業の高度化等に対応するために、それぞれの学科において専門性を高める取組を行うとともに、キャリア教育の充実と体系化を行い、将来の生き方働き方や社会とのつながりを考え、生徒の社会的自立に向けたキャリア形成を支援する。
- (3) 自尊意識とふるさと意識の醸成
本校の教育課程で実施される「体験活動」や「命の教育」をはじめ、地域との関わりを通じた体験等の取組により、生徒の自尊心や他者尊重の精神並びにふるさと意識の醸成を図る。
- (4) 人権意識の向上と主権者教育の実施
あらゆる教育活動をとおり生徒の人権意識を高め、他者と協働する姿勢を身に付けさせるとともに、公共の精神や政治的教養を育む教育を推進する。
- (5) 地域及び関係機関との連携の強化
地元の関係機関や大学等と連携した教育活動を一層推進させ、地域になくってはならない学校として、地域の将来を開く高い専門性をもった人材の育成を積極的に行う。
- (6) 特別支援教育、共同と交流学习の充実
交流及び共同学習の実施校として、高校生ころのサポート推進事業との連携を密接にし、特別支援教育体制を一層推進させ、インクルーシブ教育についての理解を深めるとともに個に応じた指導の充実を図る。
- (7) 職員の協働体制の確立
教育目標遂行のため、教育活動における共通理解を図り、部・科・学年の連携を通し、学校の組織力を生かした協働体制を確立する。また、校務の効率化により勤務の適正化を図り、生徒との向き合う時間の確保とともに、教職員の心身の健康維持を図る。
- (8) 教職員の資質能力の向上
教職員の資質・能力の向上が求められている中、研究授業や幅広い分野での研修を積極的に行い、教職員の専門性や実践力の向上を図る。
- (9) 本校の魅力の発信、広報力の検討
あらゆる機会を通し、本校の魅力を中学生、地域、行政及び関係機関に発信し、開かれた学校づくりをさらに進める。
- (10) 本校の将来像の検討
地域の現状や社会の変化や専門高校の在り方等を踏まえ、今後の本校の将来像について検討する。

3 各部・科・学年の重点目標、具体的取組、評価

○基本方針

総務部	校訓「開拓者精神」に基づき、不断の挑戦や努力を尊重でき、地域社会を支え、貢献できる人材、地域の未来を切り開いていく人材を育成するという学校目標を実現するための基礎となる環境づくりを推進する。
教務部	(1) 基礎学力の定着と主体的・共同的学习の積極的な導入を図り、生徒の適性・能力・進路に応じた教育を目指す。 (2) 「丹波学」を柱としてカリキュラムを運営する。
生徒指導部	(1) 社会的に自立（自律）し、地域社会に貢献できる人材を育成する。 (2) 自信と誇りを持った生徒を育成し、問題行動の未然・再発防止に努める。 (3) 確かなコミュニケーション能力を持ち、主体的かつ適切に行動できる人材を養うとともに、関係機関と連携しつつ「いじめの防止」に努める。
進路指導部	生徒一人ひとりが主体的に自らの在り方・生き方を考え、能力・適性に応じた進路選択と自己実現ができるように、学校教育活動の各段階を通じて効果的な進路指導の取り組みを行う。
保健部	生徒自らが、健康の保持・増進に努め、心身共に健康で安全な学校生活が送れるよう実践的な能力と態度を育てる。
実習総務部	特色ある様々な体験活動をとおして、開拓者精神の高揚を図り、地域社会で活躍する地域の担い手を育成する。
営農科	(1) 農業の知識や技能を身に付け、地域の農業経営者や担い手を養成する。 (2) ふるさとの自然や文化を愛し、地域の課題の解決に参画する態度を養う。
食品加工科	原料栽培・加工・流通までの幅広い学習を展開し、地域特産物や校内製産品を中心とする食品の加工、および貯蔵、衛生に関する知識と技能を習得する。
生活科	農業教育を基に、家庭生活および福祉に関する基礎的知識や技術を習得させ、地域社会の発展に貢献できる人材を育てる。
商業科	商業教育を通して社会に役立つ専門的な技術能力とともに社会人基礎力を身につけ、周囲と協力して地域に役立つ人材を育成する。特に、基礎学力及びコミュニケーション能力の定着を図り、自己の責任と協働の意識を高める。
第1学年	学年目標を「凡事徹底」と定め、1年生の段階で規律ある高校生活を送らせることに重点を置く。
第2学年	学年目標である「ほんきであれ ①素直であること ②最後まであきらめないこと ③準備を怠らないこと ④心配りができること ⑤目標を高く持つこと」が実践できる生徒を育成する。
第3学年	最高学年としての自覚と責任感を養い、社会人として通用する常識を身につけさせ、目標とする進路実現を図る。

○具体的な目標とその取組、評価

(1) 基礎学力の定着と主体的・対話的、協働的学習の積極的な導入		
	目標・取組計画	評価
教務部	(1) 朝学習を活用して、学習習慣の確立と義務教育段階の学習内容の定着を図る。 (2) アクティブラーニング型授業を効果的に取り入れ、生徒の主体的・対話的な学習による深い学びの実現を図る。	(1)2年生は 3/15、1年生は 3/20 に1年間の確認テストを実施。 (2)授業担当者によって差が見られる。
生徒指導部	全教員の共通理解のもと、「イエローカード」の活用や服装・頭髪点検などの生徒指導を行う。また、「朝学」と連携した遅刻指導を行い、学習前の規律や学習習慣の確立をはかる。	頭髪規定（主に長さの規定）を改定した。おおむね良好だが、ツーブロックや左右が不均等な頭髪をする生徒が若干いる。今後も生徒の状況を見ながら方向性を定めて行きたい。
進路指導部	全職員と協力して朝学習を運営し、生徒に基礎学力と学習習慣を定着させる。	朝学習は、クラスによって取り組む姿勢が異なっていたが、全体として学習に取り組む姿勢は定着しつつある。しかし、基礎学力および家庭での学習習慣の定着は、全体的に低く、就職試験や入試において基礎学力不足が見られた。
実習総務部	各種学校行事での生徒の積極的な参加やみんなで1つの行事を成功させる雰囲気づくりを行う。	概ねできた。より教育効果を上げるために教職員間の連携が必要。
営農科	読み書き計算を使う内容、提出物での漢字・言葉使いのチェックを行う。発芽率・肥料計算・農薬の希釈など計算を必要として内容を増やす。また、実習を自ら進んで行い、コミュニケーションを図り、みんなと協力し実習を行うようにする。	他教科との連携による基礎学力の向上には、まだまだ取り組みを強化する必要がある。また、実習に対して主体的な活動を行う人材の育成については学年が上がるにつれて成果が見られる。行動改革の基本は意識改革にあるため1年次に徹底して意識改革をする必要がある。
食品加工科	朝学習を契機に学習に取り組む姿勢を高め、専門科目の学習に必要な数学や理科などの基礎的知識を身に付けられるようにする。また、実験・実習を通して課題解決能力を身に付けさせる。	朝学習は取り組む姿勢の向上という面では成果をあげているが、基礎的知識の定着には至っていない。 実験・実習では、協調性を身に付け、課題解決に取り組もうとする姿勢が見られる。
生活科	朝学習を契機に学習に取り組む姿勢を高め、専門科目の学習に必要な数学や理科などの基礎的知識を身に付けられるようにする。また、実習を通して課題解決能力を身に付けさせる。	朝学習については成果をあげている。基礎的知識は難しい。 実習では、自ら考えて取り組むことができている。
商業科	朝学習をきっかけに、学習する意識を高め家庭学習の充実が図れるように、定期的に宿題を課し定着するように働きかける。	計画的な宿題を課し家庭学習を促すとともに、理解できていない部分に関しては希望補習を行った。効果は見られた。
第1学年	一般常識テストを実施し、基礎的な学力の定着を図る。各種検定の受検率を高める。	週1回一般常識テストを実施。進路に向けた準備としてはよいスタートが切れた。 各種検定の受検率は徐々に下がっている。対策の補習を実施するなど合格率を高めて、学年全体の意識を高めたい。
第2学年	英語・数学・国語・一般常識など学び直しによる基礎的な学力の定着を図る。	・朝学の取組みにバラツキが出てきている。 ・基礎力診断テストの結果から家庭での学習

	学年で、語彙・読解力の充実を図り、検定3級合格をめざす。	を「ほとんどしない」が50%を占める。 ・「語彙・読解力検定」3級を全員受験した。 合格率は約40%という結果であった。
第3学年	学び直し学習や反復学習により、社会生活に求められる最低限度の基礎学力を定着させる。	家庭学習の時間が少なく、基礎学力の定着が困難であった。朝学はクラスにより進度、取組状況に差があったものの、意識の向上につながった。
(2) 専門性の向上と社会的自立に向けたキャリア教育の充実		
	目標・取組計画	評価
教務部	公開授業週間を活用し、授業改善に取り組む。	実施率 31/36≒86% 見学も1人1回以上の目標を達成できず。年度末に授業アンケートを実施。
生徒指導部	特別指導に関わった生徒の事後指導や日常生活指導を工夫し、問題行動の未然・再発防止を行うなかで、専門性の向上や社会的自立を進める。	昨年と比較して、生徒指導の件数は1.25倍程度増えている。(3月上旬で約40件) いじめに関する指導は無いものの、SNSでの書き込みなどは発生している。今後も継続的に指導していきたい。
進路指導部	計画的かつ効果的な進路LHRを実施する。インターンシップの事前指導と事後指導を充実させ、社会的自立を促す。	各学年において必要な時期に計画的に進路LHRを実施することができ、進路意識の向上に繋がった。 インターンシップでは、今年度は27社47名が参加。事前指導・事前訪問・インターンシップ実習・事後指導と企業・学校・家庭が連携を図り実施することができ、来年度の就職活動に大いに役立つものとなった。
保健部	健康診断結果に基づき、生徒の自己管理能力の育成。(健康診断後の個別指導の充実と自分の健康状態の意識づけ、受診率向上の工夫など) 生徒を取り巻く健康課題「飲酒・喫煙・薬物乱用・感染症・性教育等」について情報提供と、学習の機会を持つ。(保健だよりによる情報発信、保健教育講座の実施など)	受診率向上の工夫については、保健だよりに加え、家庭連絡の内容も伝わりやすい様式にしているが、それだけでは受診率向上につながらない。日常生活に大きな影響を与えていない身体状況で受診をすすめるのは難しいのが課題(ただ、受診しているが報告が出ていない生徒もある)。 健康課題については、学習の機会を持ちたいが講演会等を開催する費用がない。
実習総務部	事前学習は勿論のこと、普段の授業から就業体験実習へ向けての指導を行うとともに、事後指導では進路選択に向け主体的に進むようにする。	就業体験の指導は良くしていただいた。今後、進路選択への継続的な指導と職員の協力体制が必要となる。
営農科	普段の授業・当番実習から知識・技術を身につけさせるとともに、就業体験実習・丹波学との結びつきを強め指導していく。	1年次には知識技能以前の意識、態度の育成を重点的に取り組む必要性を感じた。上級学年ではおおむねできた。
食品加工科	危険物取扱者、フォークリフト講習など、食品業界で必要とされる資格や講習などの取得や修了を目指す。	資格取得や講習への取り組みが消極的であった。継続した意識喚起が必要である。
生活科	食物検定、初任者介護福祉検定などの資格や講習などの取得や研修を目指す。	初任者介護検定では全員合格
商業科	日商簿記2級、英語検定準2級やITパスポート試験への取り組み、商業教育協会や各種団体が主催する競技会へ積極的に参加し、全国大会出場を目指す。	日商簿記2級など上級資格を取得した。各種競技会や発表大会に参加し、簿記コンクールでは全国大会出場を果たした。
第1学年	所属する学科で学ぶことが、将来とどのよ	専門性は着実に身につけているが、1年生

	うにつながるかを意識させる。 進路指導部と協力して進路ガイダンスなどを行い、進路実現に向けた意識を高めさせる。	ということもあり、それを将来につなげようとする意識は薄い。 進路指導部と共同して、講演会や寸劇、分野別ガイダンスを行い、仕事に対する意識は高まった。
第2学年	学校行事（就業体験実習・インターンシップなど）において「働くこと」について考えさせる。 多くの成功体験を積み、積極的に進路情報を収集することで進路意識を高めさせる。	・就業体験実習事後アンケートより「意味があった」全体で82%、考えるきっかけにはなった。 ・インターンシップの参加者47名、就職希望者の多くが参加した。
第3学年	進路指導部と連携して、就職ガイダンスや職場見学等、進路実現の支援を行う。 進学を希望する生徒に対しては推薦入試において、本校の特色ある取り組みをPRできるように準備させる。	進路指導部を中心に、事後指導の報告書・礼状などの作成を通して自覚の向上につながった。「丹波学」でコミュニケーション能力が身に付き、面接に役立った。進路についても、希望進路に概ね実現することができた。

(3) 自尊意識とふるさと意識の醸成		
	目標・取組計画	評価
総務部	ふるさと貢献活動において専門学習の成果を生かした活動をおこない、地域の一員としての自覚ならびに、地域社会の活性化に貢献する力を身につけさせる。	地域のイベントやアンテナショップの開設、地域住民や近隣学校との交流、オープンハイスクールを通し、地域の一員として社会の活性化に貢献できる力を育てている。
教務部	「丹波学」を通じて、ふるさと意識と自尊心を高める。	ふるさとのことをより知る機会にはなったが、自尊心が高まったかどうかまでは把握できていない。
生徒指導部	「氷上高バッヂ」による「ほめる指導」を行うことで、生徒の自尊意識を育む。また、「若者塾」などに参加することで、ふるさと丹波への関心と意欲を深める。	氷上高バッヂは好評で、機会ある毎に活用している。「若者塾」に関しても生徒会を中心に発表会などにも参加しているが、この生徒にはまだ浸透していないように感じられる。この部分を今後考えていきたい。
進路指導部	進路 HR や進路行事を通して地元企業について学習させる。	
実習総務部	就業体験実習などの体験実習を通して、自尊感情を高めるとともに、地元のことを知る・再認識させる。	就業体験だけでなく、丹波学・就業（農）講座と結び付けることが必要。
営農科	実習・座学ともに、丹波ブランドに触れる機会を増やす。	機会自体は増えているが、生徒への還元率でいうとまだ低いと感じる。
食品加工科	丹波での就業体験実習を通して地域の農業などについて知るだけでなく、生徒各自の目標達成のための取り組みを通して、自己を理解し、向上に努める。	就業体験にむけた事前の学習や実習、それぞれの農家での実践などを通し、自己理解・向上に努めることができた。
商業科	起業経営を活用し、学んだ専門知識を自らの言葉で伝え、コミュニケーション能力を高め地域活性化に繋がるような機会を設ける。	地域未来や起業経営で商業の専門知識や技術を教え、それらを生かして地域の経済や経営、活性化についてグループワークを行った。また、課題研究でも地域の課題について考え、解決するというグループワークを行い、地域の方とのつながりを作った。
第1学年	集団宿泊訓練、体育大会、桃陵祭などの学校行事で、成功体験を積み重ねて自尊感情	本来持ち合わせていたリーダーシップを、行事を通して発揮する生徒が出てきた。他の生徒にも波及させたい。

	を高めさせる。	
第2学年	就業体験実習や地域未来の授業を通して丹波市の魅力を再発見できるよう、事前・事後指導に力を入れる。	・各科の特色を出した事前指導はできた。 ・事後指導（丹波市との比較など）に、もう少し時間をかけておこなえばよかった。
第3学年	各種学校行事でリーダーシップを発揮することにより、自尊意識を高めさせる。起業経営において地域の実業家と接点を持つことで、ふるさと意識を向上させる。	各種の行事でクラスが団結した。良い結果を残し、他学年の模範となった。起業経営での講演・グループワーク・発表を通して、丹波の魅力や課題が再発見できた。しかし、リーダーシップが苦手な生徒も多く、取り寄せ方の課題も残った。

(4) 人権意識の向上と主権者教育の実施		
	目標・取組計画	評価
総務部	環境美化を推進し、良好な学習環境づくりを推進するため、職員と生徒が清掃しやすい環境を整え、校内美化の徹底を図る。	月1回の清掃点検を効果的に実施することで、生徒及び職員の清掃意識の向上を目指すとともに、校内美化に励んだ。
生徒指導部	人権意識の向上に繋げるためにも、18才選挙に該当する第3学年には、生徒会の役員選出の時などに選挙に関する講演を実施し、選挙権の行使などの主権者教育を行う。	三木市人権・同和教育協議会の副会長である春川政信氏を招き、「みんなが笑顔になるために」という題で、自分も他人も大切にできる人権感覚や、身近な暮らしにある様々な「人権」に気づき、行動に移せるための講演会を実施した。
実習総務部	各種行事を行うことで他者と協力して行う精神を養う。	各役員が中心となり、各種行事がスムーズに行うことができた。
営農科	他学年と一緒に当番実習をする中で、声掛け・指示の仕方などを身につけさせる。	まだまだ改善の余地があると考えている。継続的かつ革新的変革を模索する。
食品加工科	実験・実習を通して社会性や指導性、協調性を身に付けさせる。	継続して実施しているが、人権意識の高揚が依然必要である。
生活科	実習などを通して社会性、協調性を身に着ける。	出来ていない
商業科	社会人基礎力の「チームで働く力」を意識づけ、協力することの大切さを理解させ、思いやりの持てる生徒を育てる。	ペアやグループでの活動を積極的に行い、助け合うことの大切さを理解できた。
第1学年	人権HRでエゴグラムを実施し、自己理解と他者理解の重要性を認識させる。生徒会と協力して主権者教育を行い、政治に興味を持たせて、今とこれからの社会を考える姿勢をはぐくむ。	エゴグラム、いじめ防止プログラム、サイバー問題、2回の同和学习と人権学習に力を入れた1年であった。 予定していた主権者教育については日本史の授業を通して学習した。
第2学年	日常生活において、他者を理解し、他者を認める意識を育む。	・他者を理解する力が欠けている生徒が一部みられた。
第3学年	各種講演会等を通じて人権意識や選挙権を有する意味を理解させる。	各種講演会の事後指導の時間が確保できなかった。校内生徒会の選挙では、投票体験をすることにより、社会の一員としての自覚が芽生えた。

(5) 地域及び関係機関との連携の強化		
	目標・取組計画	評価
総務部	クラブ後援会、学校評議員、PTAなどの関連団体との協力・協働関係を深化させる。	関係団体と連携・協力して各式典、桃陵祭や研修会、会議を開催できた。さらに、各団体と協力し広報の発行も実施できた。
教務部	「丹波学」を通じて地域との連携を強める。	地元起業家など多くの方に授業に参加していただき、丹波学の授業を実施することができた。
生徒指導部	毎日の登下校時の指導を行うとともに、PTAと協力した年2回の列車補導などから、地域とのかかわりを生徒に体感させることで、地域及び関係機関との連携を強化する。	JR 黒井駅前での登校指導や昇降口前と自転車置き場での挨拶や声掛けを行うことができた。 また、PTAとの列車指導を6月と11月の2回実施するなかで、登校時のマナーについてはおおむね大丈夫であるが、下校時間帯での列車内のマナー等については若干クレームを聞いている。
進路指導部	キャリアノートを活用し、勤労の義務と権利を学習する進路LHRを実施する。	
保健部	特別支援教育について、特別支援学校コーディネーターとのつながりや丹波市子ども発達支援センター等、市教委などとも連携を図り、可能な範囲で小～中～高と同じような取組を続ける。	市の関係機関や特別支援学校、子ども発達支援センター等と連携をして課題等に対応できた。 また年度当初の中学校との引継ぎもスムーズに行った。
実習総務部	丹波市就業体験実習、課題研究、就業（農）講座等で地域と連絡を密にとり、スムーズな行事運営を行う。	地域・関係機関と連携を図り、運営できた。今後より教育効果を図るために、連携していかなければならない。
営農科	イベントに参加する。地域・関係機関の方に講演・技術指導をして頂く。	おおむね実施できた。
食品加工科	地元イベントに販売実習のかたちで参加することにより、地域とのつながりを強くする。	地元小学校や関係機関の協力のもと交流学習を行うことができた。また、地元実施の販売実習に計7回で2年の生徒が全員参加することができた。
生活科	かすが花の子園との交流、地域のイベントに販売学習のかたちで参加することにより、地域とのつながりをする。	かすが花の子園との交流学習ができた。地元の販売実習に参加ができた。
商業科	課題研究や総合実践での販売実習を活用し、農業科の取り組みを理解した上で、生徒同士が学科の枠を超え氷上高生としての協力体制を築き、氷上高校のPR活動に取り組む。	課題研究では、地域の様々な団体や学校と連携して課題解決に取り組むことにより、氷上高校のPR活動ができた。販売実習では、本校農業科の取り組みを見学、体験し理解したうえで販売することにより、学科間連携をすることができた。
第1学年	ボランティア活動や地域主催の研修会への積極的な参加を促し、地域の一員としての自覚を促す。	生徒会、農業クラブ、商業クラブに所属する生徒はさまざまな研修会やボランティアに参加した。一般生徒の参加が今後の課題である。
第2学年	課題研究や地域未来の授業を通して、地域の現状と課題を把握し、地域の一員であることを自覚させる。	・自覚させるきっかけづくりにはなった。来年度以降にどう発展させていくのが課題である。
第3学年	起業経営の中で、新商品の具現化など、目に見える具体的な成果を上げること。	目に見える成果は少なかったが、多くの講師の方から好評をいただいた。一部、新聞にも取り上げられ生徒の自信につながった。

(6) 特別支援教育、共同と交流学习の充実		
	目標・取組計画	評価
教務部	生活科や商業科、生徒会などと連携して氷上特別支援学校との交流や共同学習を推進する。	交流や共同学習の内容や回数は増えた。関わる生徒が一部であることが課題である。また、互いに学びあう・教えあうということも課題である。
生徒指導部	地元の特別支援学校との交流事業を行うことで、人権意識の向上や障害を持つ方への理解を深める。	氷上特別支援学校の運動会の運営補助ボランティアや、特別支援学校の生徒を本校に招いた交流活動のほかに、市内の商業施設において販売実習を実施した。
進路指導部	支援が必要な生徒の進路について、関係機関と連携して指導を行う。	
保健部	特別支援教育について、コーディネーターを中心に担任、学年、保護者とのこまめな情報交換を実施し、校内での情報共有を定着させる。	情報共有のための校内委員会は定期的で開催できたが、コーディネーターの役割が定着せず、担任や学年に生徒や保護者対応を任せきりになっている部分が課題と感じる。
実習総務部	各種行事を行うことで他者と協力して行う精神を養う。	各役員が中心となり、各種行事がスムーズに行うことができた。
営農科	一通りの実習の流れを説明し、生徒の動きを把握し、一つ一つ指示を出していく。	特別な支援をする上ではどうしても人員不足を感じる。少人数における分割授業ではある程度の成果が出ている。
食品加工科	学年と連携し、生徒の情報を共有して共通の認識で個に応じた支援にあたる。	生徒の情報は共有できているが、同じ認識での個人支援ができていない。
生活科	学年と連携し、生徒の情報を共有して共通の認識で個に応じた支援にあたる。	生徒の情報共通はできている。
商業科	科会などを利用し研修の機会を設け、共通理解をもって生徒指導にあたる。	科会で情報共有を頻繁に行い、共通理解をもって生徒指導にあたった。
第1学年	特別な支援を要する生徒については、こまめに保護者面談等を行う。必要があれば関係機関の協力を得て、専門的な見地から指導方針を考える。	該当生徒に対しては、保護者面談を繰り返した。さらに行政や特別支援学校の協力を仰ぎ、研修や協議を重ねて合理的な配慮と支援を行った。
第2学年	個別の支援計画を作成し、学年団の共通理解を図る。	・支援を要する生徒の共通理解を図れた。
第3学年	必要に応じて関係機関との連携を図る。必要があれば、療育手帳を利用した就職も視野に入れる。	支援を要する生徒に対し、関係機関と連携が図れた。また、療育手帳を利用した就職も保護者理解のもと行うことができた。

(7) 職員の協働体制の確立		
	目標・取組計画	評価
総務部	各部、科、学年と連携し、学校運営にあたるとともに、各行事においても職員全体が動きやすい体制を整える。	昨年に続き、意思の疎通を心がけて学校運営にあたり、各係や担当とコミュニケーションをとりながら各行事の運営に努めた。
教務部	定期的に委員会や研修会を開催し、情報の共有を図る。	教育課程委員会と学習指導研修会を定期的に行うことができた。
生徒指導部	各部・各科・各学年等との連携をより深めることで、問題行動の抑止と再発防止に	問題行動の抑止という部分はなかなか難しい内容ではあるが、問題行動発生時の初

	努める。	動対応はおおむねできたように感じる。
実習総務部	コミュニケーションをとり、情報の共有を行う。	情報共有を心掛けたが、伝えきれていないことが多かった。
営農科	コミュニケーションを図り、情報の共有化を行う。	年間32回の科会を実施する他に、各教員が目指す学科の姿を模索して共有した。
食品加工科	科の目標に対して科内で共通理解を図る。また、他科をはじめ部・学年との連携を深める。	共通理解はある程度図れているが、連携についてはあまりできておらず、深める必要がある。
生活科	科内で共有情報を図る。また、他科、学年、部との連携を図る。	共通理解はある程度できているが、連帯についてはあまりできていない。
商業科	まずは科内の職員間で共通理解を深め、他部署に発信できるように努める。	商業科内でチャットアプリを活用し情報共有を行った。また、科会や科内研修で授業力の向上や連携体制を強化した。
第1学年	学年主任、各クラス担任、学年付が些細なことでも情報共有し、即座に対応する。	協力体制は十分に整っており、様々な問題に即座に対応できた。情報交換も活発に行った。
第2学年	担任と副担任の協働を図り、複数の視点によりクラス運営に努める。	・情報交換をおこなったが、クラス運営までには至らなかった。

(8) 教職員の資質能力の向上		
	目標・取組計画	評価
総務部	防災教育の推進と職員の防災意識の向上を目的とした、防災訓練を年2回ならびに防災講話を実施する。	実施後におこなうアンケートの質問方法を変えた。それぞれ担当ごとに自分は何ができ、何ができなかったかを記入し全体で共有した。
教務部	公開授業への参加、研究授業の実施を促す。	(1)で前述の通り。 全体には実施を促したが、個人には促すことを避けた。
生徒指導部	生徒指導や人権に関する研修会を開き、職員の共通理解を図る。また、教職員としての資質の向上に努める。	氷上特別支援学校を活用した研修会を行い、特別支援を要する生徒の「個別の支援計画」や「個別の指導計画」を作成した。これを広く活用して、特別支援に係わる生徒やその他の問題を持つ生徒に対しても対応している。
進路指導部	進路研修会を実施する。	
保健部	保健関係では、教職員の学校事故等の対応(救急処置含む)について、特別支援教育について継続して取り組む。	学校事故対応についての研修内容に不足を感じる。特別支援教育に関する研修については数年前から継続して行っており、教職員の関心も高まっている。
実習総務部	研修会に参加、情報の共有を行う。	増やすことができたが、報告が多く事前の予定等をHPに載せることが必要。
営農科	研修会への参加、その後の情報共有を進める。	まだまだ改善の余地がある。学科だけの問題ではない。
食品加工科	各種研究大会や講習会などに参加し、個人の能力の向上を図るだけでなく、その知識の共有ができるよう努める。	各種研究大会への参加、知識の共有ともにあまりできていない。積極的な取り組みを継続して喚起する必要がある。
生活科	各種研究大会や講習会などに参加し、個人の能力の向上を図るだけでなく、その知識の共有ができるよう努める。	できていない

商業科	各種セミナーや研究大会に積極的に参加し、情報の共有を図り資質の向上に努める。	科の職員が研修を受講し、その情報を共有した。また、科長主導で科内研修を行い、授業力向上や専門性の深化を行った。さらに、授業アンケートを全科目で実施し、グラフにまとめて協議した。
第1学年	本校が重点を置く丹波学の授業に、学年団の教師が積極的に見学し来年度の実施に備える。 教育相談等の研修会に参加し、生徒とのかかわり方についてのスキルを向上させる。 内外の進路指導関係の研修会に参加し、進路指導に関する知識を充実させる。	学年団の丹波学に対する理解は深まった。来年度に向けてのイメージは完成したと思われる。 教育相談についてはさまざまな問題を抱える生徒に細やかな配慮をすることができた。特に関係機関とのかかわりは職員にとっても有意義な経験となった。 「Japan-eportfolio」の導入が始まる学年として、業者の担当者を招聘し学年で再三の研修を行った。
第2学年	学年団で情報の共有化をおこない、幅広い視点から学年（クラス）運営に携わる。	・学年での仕事を割り振り（教務・校外活動・生徒指導など）、個々の職員の得意性を高めた。また、情報の共有に努めた。

(9) 本校の魅力の発信、広報力の強化		
	目標・取組計画	評価
総務部	学校だよりを定期的に発行するとともに、行事ごとにホームページを更新することで幅広く本校の魅力を伝える。さらに、ブログを利用し最新の情報を発信する。	ホームページの更新やブログを利用して、最新情報の発信に努めた。また、新学科の始動に向けPRするとともに内容の更新をおこなった。次年度の課題として、必ず氷上高だよりの更新をおこなうとともに、HPの内容を充実させる。
生徒指導部	生徒が主体的に取り組む機会を生徒会活動や部活動で提供し、それをサポートする部門であるように、生徒との対話を深めて情報発信を行う。	生徒は各部活動等で頑張っており取り組んでくれた。部費など金銭的な部分のバックアップを今後も進めていきたい。
進路指導部	ホームページを通じて、進路指導の様子をタイムリーに発信する。	
保健部	HPに「保健室」のページを作り、カウンセリングのお知らせ、保健行事などのお知らせをHP上で行う。	HPに保健室の項目を作ってもらったが、定期的に発信できなかった。次年度は保健室からの発行物を定期的に発信していく。
実習総務部	プレスリリース・HPの更新を増やす。	増やすことができたが、報告が多く事前の予定等をHPに載せることが必要。
営農科	生徒の生き生きとした活動の記録とHPの更新、プレスリリースの機会を増やす。	HP自体が死に体であり各学科で更新できる簡易的なシステムが求められる。
食品加工科	日常の実習などの情報をホームページで発信するだけでなく、校内製産品や校内栽培農作物の良さをイベントなどでアピールする。	イベントでのアピールはできたが、ホームページを利用した発信はできていない。
生活科	日常の実習などの情報をブログの発信を積極的に行い、各イベントなどでパネル展示などを行う。	ブログではアピールはできている。継続した取組が必要
商業科	課題研究では各講座が地域と連携し、地域の魅力を発信することが重要で、その活動こそが本校の魅力の柱として位置付	課題研究発表会のポスターを商業クラブが作り、様々な関係機関に送付した。また、課題研究の活動を地域と連携して行うことで、魅力的な取り組みとなり、広報の役割も果たした。

	け取り組む。	
第1学年	毎月、機に応じて学年通信発行し学年の情報発信を行う。	毎月学年通信を発行し、行事や定期考査などの情報を発信した。
第2学年	学年通信発行の定例化（月1回）を図り、情報発信に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の発行（2月までに10回）、情報発信ができた。 ・昨年度、課題にしていたHP上のアップは本年度も未実施となった。

(10) 本校の将来像の構築		
	目標・取組計画	評価
生徒指導部	本校生徒の知識・技能を高めるためには、まず学習習慣や規範意識を身に付けることが一番である。この点からも、規則やルールの遵守ができる生徒を育てつつ、人間性を高めることを目標とする。	規則やルールを守りつつ、安心して学習できる環境を作ることができたかということ、学年や教科によっては難しかった場面もあった。今後も引き続きマナーアップや規則遵守を身に付けられるように指導して行きたい。
実習総務部	学科改編を見据えた就業体験実習のあり方を考える。 地域との連携を強化する。	大筋の枠を考えることができたが、今後詳細を決めていくことが必要。
営農科	学科改編をにらみ、地域の一次産業を担う人材を育成するための農場運営計画を立てていく。	長期展望を持った農場運営像の外郭ができてきたように感じる。継続的に内容を錬磨していく必要がある。
1学年	来年度から学科改変が行われるにあたり、今年度の行事について綿密に振り返りを行い、新しいシステム構築につなげていく。	学科改変に伴い、行事を大きく見直した。さらに改革できるところを探し、新しい学校としての方針を築きたい。
2学年	就業体験実習や修学旅行などの学校・学年行事の実施終了後に次年度以降に向けての改善点・反省点に時間をかけて振り返る作業に重点を置く。	・職員、生徒からの聞き取りなどから、改善点を検討した。あわせて、資料などの手直しもおこなった。

令和2年度保護者アンケート結果（回答数 227）

【氷上高校の教育活動について】

		平均
ホームページで学校の情報が十分に公表されていますか。	R1	2.5
	R2	2.5
各種通信をとおして、十分な情報が提供されていますか。	R1	2.7
	R2	2.7

「よくできている」「だいたいできている」「あまりできていない」「できていない」「わからない」

各科に応じた特色ある教育が実施されていますか。	R1	21 62 5 9	2.8
	R2	20 65.0 2 8	3.1
地域と連携した教育活動ができていますか。	R1	17 56 7 17	3.0
	R2	13 55 9 1 17	2.7
生徒の学力を伸ばす指導がなされていますか。	R1	8 48 19 3 19	2.3
	R2	10 53 15 2 14	2.4
生徒の意欲を引き出す指導がなされていますか。	R1	8 44 24 5 17	2.0
	R2	9 48 20 3 14	2.3
生徒理解に基づいた指導がなされていますか。	R1	7 46 21 4 19	2.1
	R2	10 52 15 3 15	2.4
規律正しい生活についての指導がなされていますか。	R1	10 62 12 1 12	2.7
	R2	12 56 13 3 11	2.5
部活動が積極的に行われていますか。	R1	11 38 24 10 14	1.9
	R2	8 39 22 11 15	1.9
生徒に的確な進路指導がなされていますか。	R1	10 50 16 2.0 19	2.4
	R2	10 51 18 3 13	2.4
校舎内外の美化が図られていますか。	R1	13 67 5 12	3.0
	R2	14 60 6 1 13	2.9
防災・防犯について、危機管理に対応した訓練が行われていますか。	R1	3 45 10 2 36	2.5
	R2	7 40 13 2 33	2.4

【氷上高校の生徒全般について】

服装や髪型はきちんとしていますか。	R1	16 68 10 2	2.9
	R2	22 59 10 1 3	2.9

あいさつはきちんとできていますか。	R1 R2	2.4 2.3
学習にしっかり取り組んでいますか。	R1 R2	1.7 1.9
部活動に積極的に取り組んでいますか。	R1 R2	1.8 2.0
地域の活動に積極的に参加していますか。	R1 R2	2.0 1.8
通学マナーや交通ルールが守られていますか。	R1 R2	2.2 2.3
ボランティア活動を積極的に行っていますか。	R1 R2	1.6 1.7
いじめやトラブルのない学校生活ができていますか。	R1 R2	2.3 2.6
進路目標や、その実現に向けての計画性を持っていますか。	R1 R2	1.9 2.4

4 教員自己評価

評価基準	4 よく実施できており、成果が表れている	2 あまり実施できていない
	3 実施はできているが、成果はあまり表れていない	1 ほぼ実施できていない

重点実施項目	評価					H30 評価
	4	3	2	1	平均	
【(1) 基礎学力の定着と主体的・対話的、協働的学習の積極的な導入】 生涯を生きていくために重要な基礎的・基本的学力や技能を定着させるとともに主体的・対話的、協働的学習を積極的に導入し、思考力・判断力・表現力・課題解決力等未来型の学力を養う。	12%	72%	12%	0%	2.8	2.7

<p>【(2) 専門性の向上と社会的自立に向けたキャリア教育の充実】</p> <p>社会の変化や産業の高度化等に対応するために、それぞれの学科において専門性を高める取組を行うとともに、キャリア教育の充実と体系化を行い、将来の生き方働き方や社会とのつながりを考え、生徒の社会的自立に向けたキャリア形成を支援する。</p>	16%	72%	12%	0%	3.0	3.1
<p>【(3) 自尊意識とふるさと意識の醸成】</p> <p>本校の教育課程で実施される「体験活動」や「命の教育」をはじめ、地域との関わりを通じた体験等の取組により、生徒の自尊心や他者尊重の精神並びにふるさと意識の醸成を図る。</p>	28%	64%	8%	0%	3.2	2.7
<p>【(4) 人権意識の向上と主権者教育の実施】</p> <p>あらゆる教育活動をとし生徒の人権意識を高め、他者と協働する姿勢を身に付けさせるとともに、公共の精神や政治的教養を育む教育を推進する。</p>	8%	44%	48%	0%	2.6	2.4
<p>【(5) 地域及び関係機関との連携の強化】</p> <p>地元の関係機関や大学等と連携した教育活動を一層推進させ、地域になくってはならない学校として、地域の将来を開く高い専門性をもった人材の育成を積極的に行う。</p>	60%	24%	16%	0%	3.4	3.3
<p>【(6) 特別支援教育、共同と交流学習の充実】</p> <p>交流及び共同学習の実施校として、高校生こころのサポート推進事業との連携を密接にし、特別支援教育体制を一層推進させ、インクルーシブ教育についての理解を深めるとともに個に応じた指導の充実を図る。</p>	36%	52%	8%	0%	3.2	3.0
<p>【(7) 職員の協働体制の確立】</p> <p>教育目標遂行のため、教育活動における共通理解を図り、部・科・学年の連携を通し、学校の組織力を生かした協働体制を確立する。また、校務の効率化により勤務の適正化を図り、生徒との向き合う時間の確保とともに、教職員の心身の健康維持を図る。</p>	24%	36%	40%	2.9%	2.9	2.4
<p>【(8) 教職員の資質能力の向上】</p> <p>教職員の資質・能力の向上が求められている中、研究授業や幅広い分野での研修を積極的に行い、教職員の専門性や実践力の向上を図る。</p>	12%	48%	36%	4%	2.7	2.5
<p>【(9) 本校の魅力の発信】</p> <p>あらゆる機会を通し、本校の魅力を中学生、地域、行政及び関係機関に発信し、開かれた学校づくりをさらに進める。</p>	16%	32%	44%	8%	2.7	2.5
<p>【(10) 本校の将来像の検討】</p> <p>地域の現状や社会の変化や専門高校の在り方等を踏まえ、今後の本校の将来像について検討する。</p>	8%	24%	44%	24%	2.2	2.6